

学校や教科を越えてつながる

小・中・高の学習の系統性

傷害の防止

交通事故や、地震などの自然災害などによる傷害(けが)は、どのような要因が関わり合って起こるのでしょうか。また、傷害の発生を防いだり、症状を悪化させたりしないためには、どのようにしたらよいのでしょうか。

この章で学習すること

- 小学校では、交通事故や身の回りの生活の危険が原因となって起こるけがの防止、すり傷や鼻血などの簡単な手当てなどを学習しました。
- 中学校では、傷害の発生要因、それらに対応した適切な対策による傷害の防止、応急手当の意義や方法などについて学習します。
- 安全に関する原則や概念に着目して危険の予測や回避の方法を考え、それらを表現してみましょう。

高校で学習すること

安全な社会づくり、応急手当(応急手当の意義、日常的な応急手当、心肺蘇生法)、労働災害の防止

◎ 道徳【道徳精神、公徳心】【社会夢画、公共の精神】

偉人の紹介

津波から多くの村人を救う

実業家、政治家。1854年12月24日(旧暦11月5日)に起きた安政南海地震の津波が村を襲ったとき、自分の田で収穫された稲の束(稲わら)に火を放ち、この火を目印に村人を誘導して安全な場所に避難させた。これを基に作られた物語が「稲わらの火」として知られている。この話に由来して、11月5日を「世界津波の日」に認定する決議が、2015年に国連で採択された。

保健編 3章

地域の防災費を高めるための寸劇「防災員の発表の様子(高知県高島市南洲中学校)」

▲p.61 保健編3章の扉

カリキュラム・マネジメント

随所に「他教科マーク」を設け、他教科の学習内容との関連を簡潔に示し、系統的かつ発展的な指導ができるようにしました。また、他教科の教科書紙面を確認できるDマークコンテンツを用意しています。

- 口絵7【支え合って生きている】
- P.62【傷害の発生要因】
- P.86【さまざまな自然災害の危険と安全な避難】
- 理科1年【地震に備えるために】
- 家庭【災害に備えた住まい】
- 地震防災

▲p.72 保健編3章「6.自然災害による傷害の防止」

小・中・高を通じた学習の系統性に配慮し、章の扉に、その章の学習に関連する小学校の学習内容と高校の学習内容を明記しました。

小学校で学習したこと

中学校で学習すること

高校で学習すること

5 災害への対策

自分の住む地域の災害の危険性について理解できる。
 日録
 地震など災害への備えについて考え、対策を工夫できる。

考えよう

あなたが住んでいる地域では、どのような災害に備えておく必要があるか考えよう。

地震後の室内(東日本大震災) 河川の氾濫を受けた住まい(豪雨) 台風で倒れた木(豪雨) 崩落で倒れた建物(巨震)

年	災害	被害者数(人)
1923年9月	関東大震災	(約 105,000)
1959年9月	伊勢湾台風	(5,098)
1990年11月～1995年6月	新潟・長野連続地震	(44)
1995年1月	阪神・淡路大震災	(6,437)
2004年10月	新潟県中越後地震	(68)
2011年3月	東日本大震災	(22,252)
2011年8～9月	平成23年台風第12号	(98)
2012年11月～2013年3月	平成24年の大雪等	(104)
2014年9月	新潟県中越前地震	(63)
2016年4月	熊本地震	(273)
2018年6～7月	平成30年7月豪雨	(245)

内閣府「令和3年版防災白書」より作成

防災 防災・減災手帳

他教科 【社会(地理)】 自然災害と防災への取り組み

◎ 保健体育 自然災害による傷害の防止

◎ 理科 自然の働きと災害

地域 毎年日本によってくる台風は、ときに大きな被害をもたらします。死者・行方不明者5,098名の伊勢湾台風(1959年)、3,756名の関東大震災(1923年)、3,036名の伊勢湾台風(1934年)は昭和の三大台風と呼ばれます。1,900名を超える被害者がいた新潟県大震災、カスリーン台風などもあります。

174 ▲Dマークコンテンツ 東京書籍「新しい技術・家庭 家庭分野」